



アジア太平洋都市サミット ニュースレター

No.37 2017 年 3 月号

目次

- I 2018 年市長会議の開催について（福岡市開催のお知らせ）…………… 1
- II 国連ハビタット福岡本部だより（連載 12）
「アジア太平洋地域の都市課題を多様な専門家とともに考える」…………… 2
- III ユネスコ無形文化遺産登録について
（北九州市・福岡市からの寄稿）…………… 4
- IV ヤンゴン市との姉妹都市締結（福岡市からの寄稿）…………… 5

I 2018 年市長会議の開催について（福岡市開催のお知らせ）

先日実施した書面協議の結果、第 12 回市長会議を以下のとおり開催することとなりましたのでお知らせいたします。

開催都市 福岡市（日本）
開催時期 2018 年 8 月 1 日～3 日の 3 日間
内 容 市長会議、歓迎レセプション、視察（福岡市内）など
会議テーマ 住み続けられるまちづくり
※今回の市長会議は、国連ハビタット福岡本部と共同開催いたします。



16 年ぶりに提唱市である福岡市での開催であり、また今回は国連ハビタット福岡本部との共同開催することが決定致しました。詳細なプログラムについては後日お知らせいたしますが、まずは、スケジュールの確保をお願いいたします。

会議のテーマは、「住み続けられるまちづくり」。

2015 年国連持続可能な開発サミットにて設定された「持続可能な開発目標(SDGs)」の目標 11「住み続けられるまちづくり」について、情報共有や活発な議論を交わしたいと思います。

また、2016 年にエクアドルで開催された「第 3 回国連人間居住会議(ハビタットⅢ)」にて採択された「ニュー・アーバン・アジェンダ」についてもプログラムに盛り込む予定です。

SDGs（持続可能な開発目標）

○SDGs とは？

<http://www.un.org/sustainabledevelopment/sustainable-development-goals/>

ニュー・アーバン・アジェンダ

○ニュー・アーバン・アジェンダ全文(英語)

http://nua.unhabitat.org/uploads/DraftOutcomeDocumentofHabitatIII_en.pdf

○アジア太平洋都市サミットニュースレター2016 年 12 月号の記事もご参考にご覧ください。





Ⅱ 国連ハビタット福岡本部だより（連載 12）

アジア太平洋地域の都市課題を多様な専門家とともに考える

国連ハビタットは、住まいや環境等都市が抱える様々な課題について、各国政府や自治体、コミュニティの住人等、多様な人々とともに考え、課題解決に向けた各種事業を世界の多くの途上国で展開しています。

私たちの活動には、実際に事業を行うことのほか、都市政策・都市計画についての助言・提言や、顕在化した課題についての情報発信、今後発生が予想される都市問題について人々の気づきを喚起したり、あるいは、課題解決に役立つ新たな技術を発掘し、それを必要としている都市に紹介したりといった、助言・提言、情報提供・発信、啓発・教育活動なども含まれます。

今回は、そのような活動の中から、国連ハビタット福岡本部が行っている情報共有・課題提起と、新たな技術の紹介に関する2つの活動—アジア都市ジャーナリスト会議、環境専門家会議—についてご紹介します。

一つ目のアジア都市ジャーナリスト会議は、アジア地域の都市問題について、域内のジャーナリストの間で情報共有・意見交換を行うもので、2007年8月に第1回の会議を開催して以降、毎年開催し、2016年9月に実施した会議で11回目の開催となりました。

この第11回会議では、「住み続けられるまちづくり～持続可能な都市開発・都市再生のあり方～」というテーマのもと、7カ国（中国、インド、日本、韓国、モンゴル、タイ、ベトナム）のジャーナリストが福岡市に集い、各国が独自に抱える環境や都市交通・都市インフラの課題と、アジア地域に共通する高齢化社会の課題の両方について、先進事例の視察・地域住民との交流も交えながら、課題解決策について深く考えました。



（写真左から、団地住民の高齢化についての意見交換、高齢化と人口流出に直面している町の視察と地元住民との意見交換）

先進事例視察後に実施した会議では、各国の抱える都市課題が、国によって大きく異なることに改めてアジアの多様性を感じると同時に、現在あるいは近い将来のアジア各国の共通課題として、高齢化社会の問題があることが共有され、高齢化に対応した持続可能なまちのあり方について、参加者の間で意見交換が行われました。

各国のジャーナリストは、帰国後に自国メディアでも会議の様子やそこで提起された課題について発信し、アジア地域の持続可能な都市開発について、ジャーナリストの立場から世論に問いかけてくれました。





二つ目にご紹介するのは、環境技術専門家会議です。こちらは、様々な課題を抱えるアジアの都市の代表者と、その課題解決に寄与する技術を持つ日本の企業をマッチングさせる会議で、2016 年 11 月に開催された会議が 8 回目となります。今回は「ベトナムにおける持続可能な環境開発のための技術協力を考える」をテーマに、ベトナムから建設省、タムキー市、カントー市、ダナン市の代表者にご参加いただきました。

ベトナムは南北に長い国土を持つ、自然環境的にも文化・産業の面でも多様性に富む国ですが、どの都市も豪雨による河川の氾濫や洪水被害、急激な都市化に伴う交通システムや住宅の整備が喫緊の課題となっています。

そこで、今回は、雨水貯水技術、水の浸入を防ぐ止水技術、耐久性の高いマンホール、気象データから自然災害の発生を予測・通知する技術、人体と環境に良い冷暖房技術 そして住宅整備計画のノウハウを持つ日本の各企業から技術説明をいただき、ベトナムでの活用の可能性について検討しました。



(写真左から、洪水の被害から建物を守る止水板の実演、会議での技術説明の様子、ベトナム タムキー市副市長の発言の様子)

この会議で紹介された特徴ある各社の技術には、ベトナム側参加者からも高い関心が寄せられ、導入に際しての環境条件や商品性能、設置コスト、技術支援等について幅広い質問が寄せられました。

会議終了後には、各社と各都市の個別ミーティングの機会も設けられ、更に踏み込んだ話し合いが行われました。

今後は、ベトナムでの実証実験やワークショップの開催が計画されており、この会議で紹介された技術の具体的な導入に向けたやり取りが始まります。

昨年 10 月にエクアドルの首都キトで開催された、20 年に一度の人間居住に関する国連会議(ハビタットⅢ)では、持続可能な都市の実現に向けて国際社会が取り組む指針「ニュー・アーバン・アジェンダ」が採択されましたが、これを具体的に進めて行く上では、各国政府や地方自治体だけではなく、民間企業や NGO・NPO 等、様々な専門性を持った幅広い人々の参画が不可欠であり、今後も国連ハビタットは、これら多様な関係者と連携と取りながら、情報発信、課題提起、提言、啓発活動等を通じて多くの人々に働きかけ、持続可能な都市開発・まちづくりを進めて行きます。

2018 年に福岡で開催されるアジア太平洋都市サミット市長会議でも、国連ハビタット福岡本部がアジア太平洋地域で実施している様々な活動や持てる情報・ノウハウを参加都市の皆様と共有し、アジア太平洋地域の持続可能な都市開発をますます力強く推進してまいります。

第 11 回アジア都市ジャーナリスト会議に参加した記者が自国で発信した記事(英文記事のみ紹介)

(上海日報／中国: Shanghai Daily)

<http://www.shanghaidaily.com/opinion/chinese-perspectives/Journalist-conference-highlights-challenges-faced-by-cities-in-dealing-with-urbanization/shdaily.shtml>

<http://www.shanghaidaily.com/opinion/chinese-perspectives/Rediscovering-the-usefulness-of-the-elderly-can-help-us-better-understand-urban-woes/shdaily.shtml>

(ベトナムニュース／ベトナム: Viet Nam News)

<http://vietnamnews.vn/world/343838/un-releases-document-on-human-settlement-and-urbanisation.html#uwpuqvyyu2vtgEYxk.97>

(ヒンドゥスタンタイムズ／インド: The Hindustan Times)

<http://www.hindustantimes.com/delhi/lessons-from-japan-on-caring-for-the-capital-s-elderly/story-5J0YGXVjp9GqsgplXhTwHL.html>

2015 年までの環境技術専門家会議についての内容は下記で見ることができます。

<http://www.fukuoka.unhabitat.org/kcap/index.html> (日本語)

http://www.fukuoka.unhabitat.org/kcap/index_en.html (英語)

Ⅲ ユネスコ無形文化遺産登録について(北九州市・福岡市からの寄稿)

2016 年 11 月、北九州市の国指定重要無形民俗文化財「戸畑祇園大山笠行事」を含む、全国 18 府県 33 件の祭りで構成する「山・鉦・屋台行事」が、国連教育科学文化機関(United Nations Educational Scientific and Cultural Organization、略称 U.N.E.S.C.O.)の無形文化遺産に登録されました。

九州では他に「博多祇園山笠行事(福岡市)」「唐津くんちの曳山行事(佐賀県唐津市)」「八代妙見祭の神幸行事(熊本県八代市)」「日田祇園の曳山行事(大分県日田市)」が同時に登録されています。

ユネスコ無形文化遺産は、芸能、社会的慣習、祭礼行事、伝統工芸技術などの保護や重要性に関する意識の向上等のために登録されるもので、これまで全国で歌舞伎、雅楽、和紙など 22 件が登録されています。

戸畑祇園大山笠行事は 1803 年に、地域で流行した疫病の終息を祝って始められたと伝えられており、210 年を超える歴史を持つ郷土を代表する伝統文化です。昼の幟山笠が、夜になると提灯山笠に姿を変えるのが特徴的で、福岡県夏の三大夏祭りの一つとして「提灯山」の愛称で広く親しまれています。





ユネスコ無形文化遺産に登録されている「博多祇園山笠」は、776年の伝統を誇り、祭り期間中は、毎年300万人を超える観客で賑わう、福岡・博多を代表するお祭りです。

7月1日から15日まで、福岡市内14か所に、高さ10数メートルもある「飾り山笠(かざりやまかさ)」が建ち並び、重さ約1トンもある「昇き山笠(かきやまかさ)」が博多の街を駆け抜け街は祭り一色となります。

博多祇園山笠は7月1日の飾り山笠の公開と清浄な砂で身を清めて無事故を祈願する「お汐井とり」の儀式から始まり、10日の「流昇き(ながれがき)」からいよいよ昇山笠が登場します。

クライマックスの15日早朝に行われる「追い山笠」では、夏の太陽が東の空を染め始める午前4時59分から一番太鼓の合図とともに博多の男達が心を一つにして、廻り止めを目指し、5分おきに昇き山笠が走り出します。

夜明けの博多の街を「オイッサ」「オイッサ」のかけ声とともに、約5kmのコースを全速力で疾走し、祭りはフィナーレを迎えます。

姿に見る人も一緒になって感動に浸れる祭り、それが博多祇園山笠です。



Ⅳ ヤンゴン市との姉妹都市締結について（福岡市からの寄稿）

福岡市は水道整備の支援をきっかけに交流を重ね、2016年12月7日にヤンゴン市と姉妹都市を締結しました。ヤンゴン市と福岡市の姉妹都市締結は、ミャンマーと日本間で初となります。

<ヤンゴン市の紹介>

ミャンマーは、130以上の民族が住む多民族国家です。英国から独立した1948年から1989年までは国名を主にビルマ連邦と称していました。首都はネピドーです。国民の9割が仏教徒で、その他にキリスト教、回教などが占めています。

1989年にラングーンから改称されたヤンゴン市の人口は521万人(2014年)、面積は599平方キロメートルです。ヤンゴン市は2006年までは首都であり、現在でも国内最大の都市で、経済の中心地です。

黄金の仏塔(パゴダ)が輝く仏教寺院では、ヤンゴン市民が昼夜を問わず熱心に祈りを捧げています。天然物の真珠、宝石、竹・籐(とう)製品、雑貨などミャンマー中から良い品が集まる「ボージョー・アウン・サン・マーケット」やヤンゴン市の庁舎など英国統治時代の建築物も見どころです。



シュエダゴンパゴダ



ボージョー・アウン・サン・マーケット

＜ヤンゴン市との関わり＞

福岡市は漏水率の低さで世界トップレベルを誇る水道整備の技術があり、2012(平成 24)年に JICA(国際協力機構) 専門家として市職員をヤンゴン市に派遣し、水道分野の技術協力を開始したことから、交流が始まりました。

また、2014 年に「まちづくり協力・支援に関する覚書」を締結し、ヤンゴン市職員の技術研修を受け入れるなど交流を促進し、2015 年には、ヤンゴン市で実施する上水整備準備調査の ODA(政府開発援助) 事業を官民連携で受注しました。

さらに、2015 年には、ヤンゴン・ヘリテージ財団会長のタン・ミン・ウー氏が福岡アジア文化賞大賞を受賞されるなど交流が深まり、同年8月に、ミャンマー国政府大臣とヤンゴン市から姉妹都市締結の要望がありました。



JICA(国際協力機構) 専門家として、
福岡市職員を派遣



2015 年福岡アジア文化賞
大賞受賞者 タン・ミン・ウー氏



姉妹都市締結式

福岡市としても、長い歴史と豊かな文化を有し、歴史的建築物と共存し、調和のとれた開発を進めるヤンゴン市と更なる友好関係を築き、強い絆で結ばれることは、将来にわたって財産になると考えております。

福岡市の姉妹(友好)都市は、アメリカの「オークランド市」「アトランタ市」、中国の「広州市」、フランスの「ボルドー市」、ニュージーランドの「オークランド市」、マレーシアの「イポー市」、韓国の「釜山広域市」があり、ヤンゴン市は 8 都市目です。

今後、ヤンゴン市とは、文化・芸術分野での交流や民間を含めた人的な交流が活発化するほか、上下水道・環境分野での国際協力の交流を進めてまいります。

★会員都市の担当者の皆様： 寄稿をお待ちしています。

貴市のトピックスや新規事業、都市問題の解決のヒントとなるような貴市における課題解決の取組みなど、お気軽に情報をお寄せください。

(ニューズレターは、アジア太平洋都市サミットのウェブサイトに掲載し、会員都市などへ email 送信しております。)

今後のアジア太平洋都市サミットの会議予定

開催時期	会議名	開催都市
平成 30 年 8 月 1 日～3 日	第 12 回市長会議	福岡市(日本)

アジア太平洋都市サミット：Asian-Pacific City Summit は、アジア太平洋地域の都市問題の解決に向け、市長会議や実務者による会議等を通じて、都市の連携やネットワークの構築を図っています。

アジア太平洋都市サミット会員都市 13 カ国 30 都市

オークランド市(ニュージーランド)	鹿児島市(日本国)
バンコク都(タイ王国)	北九州市(日本国)
ブリスベン市(オーストラリア連邦)	クアラルンプール市(マレーシア)
釜山広域市(大韓民国)	熊本市(日本国)
長沙市(中華人民共和国)	マニラ市(フィリピン共和国)
大連市(中華人民共和国)	宮崎市(日本国)
福岡市(日本国)	長崎市(日本国)
広州市(中華人民共和国)	那覇市(日本国)
光陽市(大韓民国)	大分市(日本国)
ホーチミン市(ベトナム社会主義共和国)	浦項市(大韓民国)
香港特別行政区(中華人民共和国)	佐賀市(日本国)
ホノルル市(アメリカ合衆国)	上海市(中華人民共和国)
イポー市(マレーシア)	シンガポール(シンガポール共和国)
ジャカルタ特別市(インドネシア共和国)	ウルムチ市(中華人民共和国)
済州特別自治道(大韓民国)	ウラジオストク市(ロシア連邦)

【編集・発行】 2017 年 3 月 31 日 アジア太平洋都市サミット事務局（福岡市総務企画局国際部）

〒810-8620 福岡市中央区天神 1-8-1 TEL: 092-711-4028 FAX: 092-733-5597

E-mail: apcs@city.fukuoka.lg.jp Website: <http://apcs.city.fukuoka.lg.jp/>